

# は し が き

円高と深刻化する不況という厳しい社会状況の中で、米・ソ、その他の国々の200海里漁業専管水域宣言以来、我が国の水産業をとりまく諸情勢は、一段と厳しさを加え、漁獲量割当等の対応のため、減船を余儀なくされ、沖合、遠洋漁業は甚大な打撃をうけ、今や未曾有の危機を迎えています。200海里問題に関連して新漁場の開発、沿岸漁場の再開発、栽培漁業の推進が強く要望されるようになってき、中でも沿岸漁業の振興は、重要且急務となってきたように思います。

当水産増殖センターは、昭和43年設立以来、本県の沿岸漁業の振興特に浅海増養殖の発展を目途に、水産動植物の増養殖に関する基礎並に応用研究を実施して10年目を迎えました。

今度、昭和51年度の研究結果をとりまとめ、業務概要第7号を発刊することになりました。皆様方に何等かお役に立てば幸と思います。

昭和51年という年をふりかえって見ますと、青森県の総漁獲量は513,879トン、前年に比較して25%の減となっており、その主な要因は「サケ」「スケソウタラ」「ホタテガイ」「スルメイカ」などの水揚量の減によるものとなっています。中でも、陸奥湾においては、昭和50年に始まったホタテガイの大量へい死は益々その被害水域を広げ、漁民の被害も一層拡大しました。その対策の1つとして、当水産増殖センターでは、「ホタテガイ部」を新設して、その原因究明と対策に当たったのであります。

皆様方の御叱正御批判を御願ひ申し上げます。

昭和52年12月

青森県水産増殖センター

所長 津 幡 文 隆